

クロカジキ 大西洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：下顎叉長 2.5 m・体重不明（雄）、下顎叉長 3.7 m・540 kg（雌）
- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：2~4 歳
- 産卵期・産卵場：夏~秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類（特にサバ類）、頭足類
- 捕食者：調査中

利用・用途

刺身、切り身（ステーキ、ソテー）

漁業の特徴

本資源が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。近年の漁獲の多くは、日本や台湾等のマグロ類を対象としたはえ縄漁業の混獲及びカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

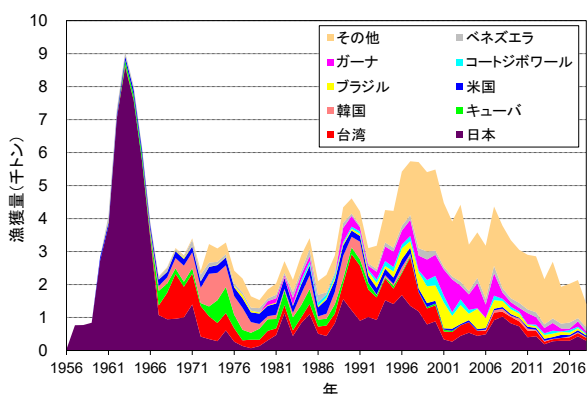
最新の本資源の漁獲量は 1979~1998 年に増加傾向を示した後、2000 年代中旬まで減少し、その後再び増加したが、2009 年以降は減少傾向を示している。1990 年代半ば~2000 年代半ばには便宜置籍船によるはえ縄の漁獲等が増加した。また、1996 年以降からはガーナ、コートジボワールといった沿岸零細漁業国がまとまった漁獲を掲げる等、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。2018 年の漁獲量は暫定で 1,411 トンであった。日本の漁獲量は、2001 年以降増加の傾向を示し 2008 年に 1,000 トンを上回った。その後、漁獲量は減少しつつも 2018 年は 293 トンを記録し、漁獲量は国別で最多となっている。

資源状態

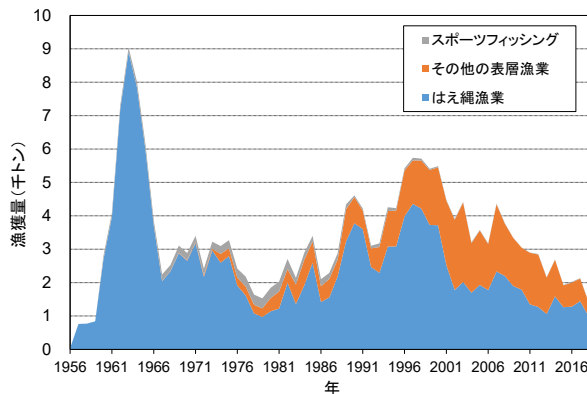
資源評価は 2018 年 6 月に ICCAT 科学委員会 (SCRS) によって実施された。資源評価には、プロダクションモデルの Just Another Bayesian Biomass Assessment (JABBA) と A Stock-Production Model Incorporating Covariates (ASPIC) 及び統合モデルの Stock Synthesis 3 (SS3) が用いられ、最終的に JABBA と SS3 の結果が採用された。これらの資源評価モデルには、データ準備会合で選定された 10 種の漁業の資源量指数が適用された。また、総漁獲量は公式統計の TASK1 に未分類のかじき類の漁獲量を考慮したものをを用いた。資源評価モデルの結果は、2011 年の資源評価結果と同様に、資源量が乱獲状態であり、漁獲も過剰漁獲状態であることを示した。さらに、SCRS は、JABBA と SS3 の結果をもとに将来予測も行い、2028 年に 50%以上の確率で資源を最大持続生産量を実現するレベルにするための総漁獲可能量 (TAC) (1,750 トン) を算出した。これらの結果を受け、SCRS は、2011 年の資源評価結果で決定した 2,000 トンの TAC を上回る漁獲が続いたため、資源量は回復しなかったと結論づけた。なお、SCRS は、この結果に対し、本資源の漁獲量と生産性について不確実性があることを明記している。

管理方策	
2018 年に行われた資源評価結果で現行の TAC を引き下げる必要性を示唆したことから、2019 年の ICCAT 年次会合では、大西洋のクロカジキ資源に対して、2020 年以降の放流を除いた陸揚げ限度量を 1,670 トンとすることが合意され、放流後の死亡率を最小化するように取り組むことが勧告された。なお、日本の割当量は年間 328.1 トンである。また、生きて漁獲された個体をできるだけ放流後の生存率が高くなるように放流することが勧告された。また、資源解析・評価の実施に当たって問題となった生存放流及び死亡投棄個体数の各国の推定方法の SCRS による検証、スポーツフィッシングについてはオブザーバーの乗船（カバー率 5%）、サイズ規制と売買の禁止が勧告されている。 2020 年の年次会合は、新型コロナウイルスの影響のため、中止となり、管理方策は更新されていない。	

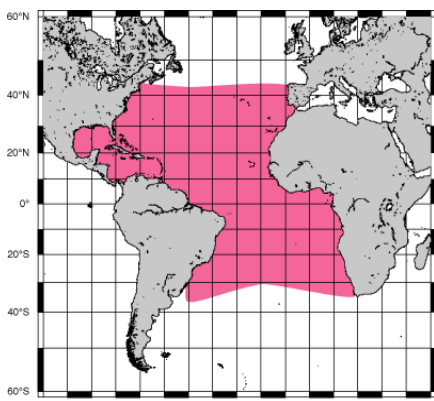
クロカジキ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1,411~2,689 トン 最近 (2018) 年: 1,411 トン 平均: 2,037 トン (2014~2018 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	280~430 トン 最近 (2018) 年: 293 トン 平均: 318 トン (2014~2018 年)
管理目標	MSY: 目標値 3,056 (2,384~3,536) トン
資源評価の方法	JABBA 及び SS3
資源の状態	現在の資源量は乱獲状態であり、漁獲も過剰漁獲状態である。
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 年以降の陸揚げ限度量を 1,670 トンとする (日本の割当量は 328.1 トン) ・スポーツフィッシングについてオブザーバー乗船 (5%)、サイズ規制、漁獲物の売買禁止
最新の資源評価年	2018 年
次回の資源評価年	2024 年



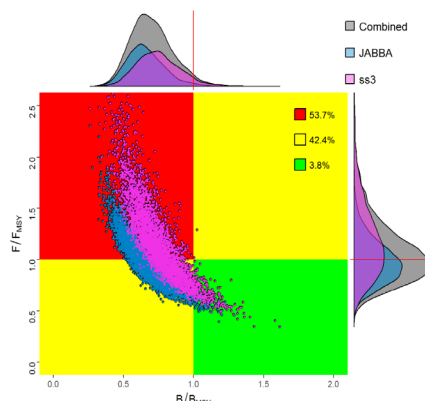
大西洋におけるクロカジキの国別漁獲量 (1956~2018 年)



大西洋におけるクロカジキの漁別漁獲量 (1956~2018 年)



クロカジキ（大西洋）の分布



JABBA 及び SS3 による 2016 年の資源状態 (神戸プロット)
 資源状態と管理勧告は JABBA と SS3 の結果によって決定された。赤丸は SS3 の結果、青丸は JABBA の結果である。